

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな 経済フラッシュ

(米国2019年7-9月期GDP速報)

2019/10/31

りそなホールディングス 市場企画部

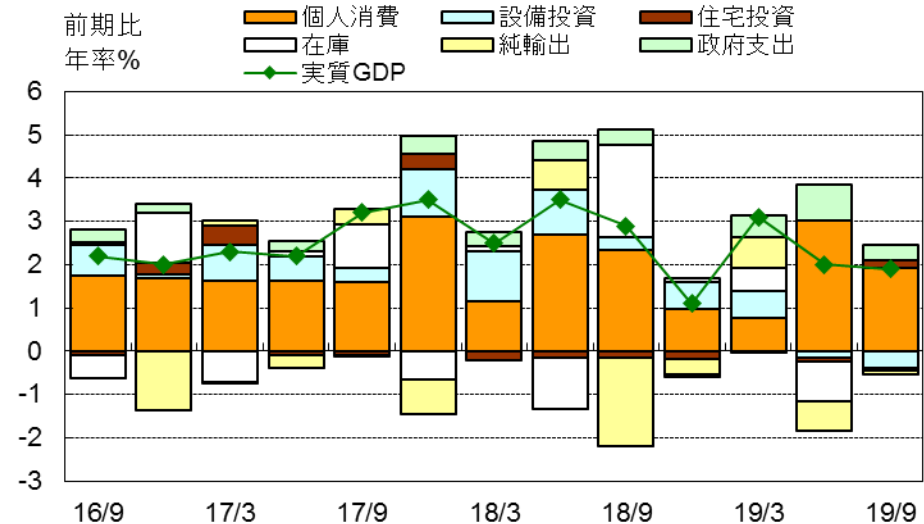


〇概況

- ◆ 7-9月期実質GDP成長率は前期比年率+1.9%
- ◆ 個人消費が前期比年率+2.9%と堅調で成長を主導
- ◆ 製造業の減速感の中で、家計部門が強さを維持できるかが米国経済の焦点

- ✓ 2019年7-9月期実質GDP成長率は前期比年率+1.9%となった（市場予想+1.6%、4-6月期+2.0%）。尚、コアPCE価格指数は前期比年率+2.2%と伸びが拡大した（4-6月期+1.9%）。
- ✓ 個人消費が前期比年率+2.9%（市場予想+2.6%、4-6月期+4.6%）。1-3月期の反動もあった4-6月期からは伸びを縮小も、市場予想を上回る堅調な内容。内訳は耐久財（4-6月期+13.0%→7-9月期+7.6%）、非耐久財（+6.5%→+4.4%）、サービス（+2.8%→+1.7%）。
- ✓ 設備投資は前期比年率▲3.0%（4-6月期▲1.0%）と2四半期連続のマイナス。世界経済先行きや米中貿易摩擦の不透明感を反映して、弱含み。一方、住宅投資が前期比年率+5.1%（4-6月期▲3.0%）と7四半期にプラスに転じた。
- ✓ 在庫は前期比年率ベースの寄与度が▲0.05%ポイント。
- ✓ 輸出は前期比年率+0.7%（4-6月期▲5.7%）、輸入は+1.2%（4-6月期+0.0%）で外需はマイナス寄与となった。
- ✓ 政府支出は前期比年率+2.0%（4-6月期+4.8%）で3四半期連続のプラス。
- ✓ GDP成長率は個人消費や住宅投資の家計部門が主導して前期比+1.9%と底堅い結果。一方で、設備投資が弱含み。
- ✓ 同日のFOMCでも、パウエルFRB議長は雇用環境を背景とした家計部門の強さを強調している。米国経済の先行きは製造業の減速感のなかで、引き続き家計部門が強さを維持できるかが注目される局面。

【実質GDP成長率（季節調整済、年率）】



【実質GDP成長率寄与度（季節調整済、年率）】

	2018Q3	2018Q4	2019Q1	2019Q2	2019Q3
実質GDP	+2.9	+1.1	+3.1	+2.0	+1.9
個人消費	+2.3	+1.0	+0.8	+3.0	+1.9
設備投資	+0.3	+0.6	+0.6	▲0.1	▲0.4
構築物	▲0.1	▲0.3	+0.1	▲0.4	▲0.5
機器	+0.2	+0.4	+0.0	+0.1	▲0.2
知的財産	+0.2	+0.5	+0.5	+0.2	+0.3
住宅投資	▲0.2	▲0.2	▲0.0	▲0.1	+0.2
在庫	+2.1	+0.1	+0.5	▲0.9	▲0.1
外需	▲2.1	▲0.4	+0.7	▲0.7	▲0.1
輸出	▲0.8	+0.2	+0.5	▲0.7	+0.1
輸入	▲1.3	▲0.5	+0.2	+0.0	▲0.2
政府支出	+0.4	▲0.1	+0.5	+0.8	+0.4

【出所】米商務省、Haver Analytics

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。